

製品名: Dbf4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09812**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	77kDa

抗原情報

遺伝子名	DBF4
別名	DBF4; ASK; DBF4A; ZDBF1; Protein DBF4 homolog A; Activator of S phase kinase; Chiffon homolog A; DBF4-type zinc finger-containing protein 1
遺伝子 ID	10926.0
SwissProt ID	Q9UBU7
免疫原	抗血清はヒト DBF4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

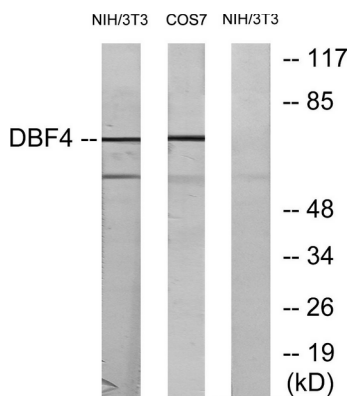
機能: CDC7 の調節サブユニット。キナーゼ活性を活性化することで、DNA 複製と細胞増殖において中心的な役割を果たします。S 期

の進行に必要です。複合体 CDC7-DBF4A は、MCM2 サブユニットの「Ser-40」と「Ser-53」を選択的にリン酸化した後、細胞周期中の DNA 複製開始の調節に関与します。誘導:G1 期に低レベルで誘導され、G1-S 期に増加し、S 期および G2-M 期には高いレベルで維持されます。PTM:DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。類似性:1 つの DBF4 型ジンクフィンガーを含みます。類似性:2 つの BRCT ドメインを含みます。サブユニット:CDC7 と複合体を形成します。CDC7 は DBF4A または DBF4B のいずれかと異なる複合体を形成することに注意してください。これらの複合体は複製ストレスに対して安定しています。MEN1、MCM2、ORC2L、ORC4L、および ORC6L と相互作用する。組織特異性: 精巣および胸腺で高発現する。また、ほとんどの癌細胞株でも発現する。機能: CDC7 の調節サブユニットであり、キナーゼ活性を活性化することで DNA 複製および細胞増殖において中心的な役割を果たす。S 期の進行に必須である。CDC7-DBF4A 複合体は、MCM2 サブユニットの「Ser-40」および「Ser-53」を選択的にリン酸化した後、細胞周期における DNA 複製開始の制御に関与する。誘導: G1 期に低レベルで誘導され、G1-S 期に増加し、S 期および G2-M 期には高レベルで維持される。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR によるものと思われる。類似性: DBF4 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性: BRCT ドメインを 2 つ含む。サブユニット: CDC7 と複合体を形成する。CDC7 は DBF4A または DBF4B のいずれかと異なる複合体を形成することに注意する必要がある。これらの複合体は複製ストレス下でも安定である。MEN1、MCM2、ORC2L、ORC4L、および ORC6L と相互作用する。組織特異性: 精巣および胸腺で高発現する。また、ほとんどの癌細胞株でも発現する。、

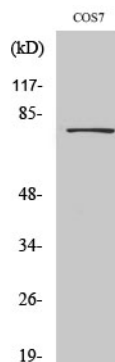
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

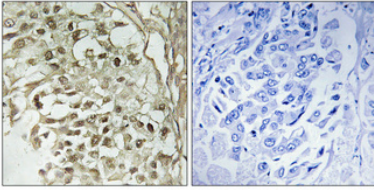
画像データ



NIH/3T3 細胞ライセート (H₂O₂ 100 uM 30 分処理、COS7 細胞ライセートは PMA 125 ng/ml 30 分処理) を DBF4 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



Dbf4 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。